



伊勢市人権尊重都市宣言

すべて国民は、日本国憲法のもと、基本的人権が保障され自由で平等な社会の実現を願っています。

しかしながら、現実の社会生活においては、今なお人権が侵害される事象が見受けられます。

今こそ、市民一人ひとりが人権尊重の精神に徹し、より豊かな人権感覚を身につけることが大切です。

よって私たちは、自らの人権意識を高め、すべての人々の人権が守られる心豊かで明るく住みよい地域社会を築くため、ここに「人権尊重都市」を宣言します。

平成18年7月11日 伊 勢 市



みんなの

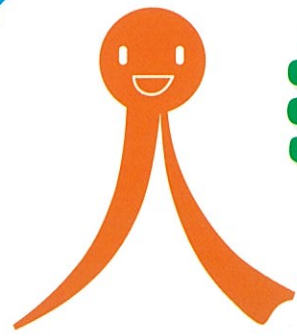


No.14

ハンドブック

北朝鮮による日本人拉致問題





拉致問題について考えよう



～すべての拉致被害者の 帰国を求めて～

1970年代から1980年代にかけて、多くの日本人が不自然な形で姿を消しました。これらの事件の多くには、北朝鮮による拉致の疑いがもたれています。

2002年（平成14年）9月に北朝鮮が日本人拉致を初めて認め、同年10月に拉致被害者のうち、5人が帰国しました。しかし、他の被害者の安否などに関する納得いく説明もなく、それから10年経った今も拉致問題は解決していません。

家族を、人生を奪い去った北朝鮮による拉致。ある日突然連れ去られ、今も救出を待ち続けている…。それが、もしも自分の家族だったら。

拉致被害者の残された家族は、また逢える日まであきらめず、救出により帰国することを待っています。

私たちが、拉致問題に関心を持つこと、それが、この問題の解決のために、とても大切な一歩になります。

拉致問題は、2011年（平成23年）に「人権教育・啓発に関する基本計画の一部変更」が閣議決定され、人権問題の12項目に「北朝鮮当局による拉致問題等」が新たに加えられました。

ブルーリボンを 知っていますか？



ブルーリボン

ブルーリボンは、拉致被害者の救出を求める運動の中で発案されたものです。

ブルー（青色）は、被害者の祖国日本と北朝鮮をへだてる「日本海の青」、そして、被害者とご家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。

「北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じている」意思表示なのです。

政府は、外交や外遊のとき、襟元にブルーリボン（バッジ）を付け、この人権侵害問題を、諸外国に意思表示しています。

～北朝鮮当局による人権侵害問題に 対する認識を深めよう～

日本政府は北朝鮮側に対し、次のことを要求しています。

- すべての拉致被害者の安全確保と速やかな帰国
- 真相究明

拉致問題は、わが国の国家主権及び国民の生命と安全にかかわる重大な問題であり、この問題の解決なくして日朝の国交正常化はありません。政府は、すべての拉致被害者の一日も早い帰国を実現すべく、総力を挙げて最大限の努力を尽くしています。国の主権を侵されて、日本の領土から連れ去られた拉致被害者がいるということは、個人の問題ではなく、国家の問題です。

私たちは、この拉致問題を日本全体の問題としてとらえ、現在も未解決の犯罪であることを国際社会に強く訴え続けることが大切です。

私たち日本人は、この人権侵害問題を絶対忘れないというアピールが解決の一歩となります。

12月10日～16日は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です